

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野西中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の定着は図られてきているが、学力の個人差も見られる。次年度も引き続き毎時間の問題演習を取り入れ、反復学習を通して基礎基本の徹底を図る。また、つまずきの早期発見に努め、個に応じた支援や補充学習を充実させることで、確かな知識・技能の定着を一層推進していく。
思考・判断・表現	自分の考えを深め、筋道立てて表現する力には引き続き課題が見られる。教科横断的な視点を取り入れ、複数の情報を関連付けて考える活動を充実させるとともに、定期テストにおいても記述問題への対策を計画的に行う。また、理由や根拠を明確にして書く活動を積み重ね、書く力の向上を図ることで、思考力・判断力・表現力のさらなる伸長を目指す。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の取得状況について偏りがみられる。 <指導上の課題>基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるため反復練習の時間を多く取ることができていない。	⇒ 「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習に取り組む【毎授業開始時の実施】。PCを毎日持ち帰ることで、家庭でも主体的に「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等に取り組めるようにしていく【毎日】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>各教科の「思考・判断・表現」の正答率が低い。 <指導上の課題>生徒が思考する場面の設定が不十分などところがある。	⇒ 生徒が主体となり、各教科において体験的な活動を取り入れる【単元に1回程度実施】。活動中にタブレットを用いて共同編集やオンラインプラスを使って話し合い活動を行い、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【単元ごとに1回】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	毎時間の授業において問題演習を継続的に取り入れ、基礎的・基本的な内容の定着を図ってきた。その結果、さいたま市学習状況調査においては、全教科で昨年度よりもポイントが向上し、取組の成果が数値として表れている。今後も反復練習と振り返りを大切に、確かな知識・技能の定着を一層図っていく。
思考・判断・表現	B	話し合い活動や生徒同士のやり取りを意図的に増やし、自分の考えを伝え合う場面を充実させてきた。その結果、さいたま市学習状況調査において全教科でさいたま市平均を上回る成果が見られた。今後も根拠を明確にして説明する活動を継続し、思考力・判断力・表現力のさらなる向上を目指していく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、平均正答率が56.9%で埼玉県と全国の平均を下回っている。語彙力を高めいくために、意味調べを通して事象や行為、心情を表す語句や抽象的な概念を表す語句の量を増やしていく。「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」の項目の肯定的な回答が約81%で埼玉県と全国の平均を上回っている。子ども主体の学びとなるような授業を今後とも継続していく。
思考・判断・表現	数学の「図形」の領域において課題が見られた。証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだす問題の正答率が高いが、自分の言葉を使って説明をする問題の正答率は低く、無解答率の割合がかなり高かった。無解答率の割合を減らして行く意識付けが必要となる。「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」における、肯定的な回答の割合は約77%であることから、共同編集等の協働的な学びの機会を適宜確保しながら、最後まであきらめずに考える力を養う。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	2年生は昨年度に比べて、数と式の計算に関する問題や図形分野の点数の向上が見られた。一方で、1年生、2年生共に数学の関数の部分に少し課題がみられた。系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切にして、生徒が知識・技能を獲得していきけるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	短答式の問題において無解答率がかなり低く、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢がみられた。これは、日頃から自分の考えをもたせる場面を意図的に設定し、学習の足跡を残す指導を積み重ねてきた成果であると考えられる。一方で、記述式の問題においては、自分の考えを筋道立てて書き表すのに課題が見られた。今後は、理由や根拠を明確にしながら説明する活動を一層充実させるとともに、キーワードを用いて文章化する練習を継続し、思考力・判断力・表現力のさらなる向上を図っていく。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習にほぼ毎授業取り組むことができた。家庭学習を充実させるために、PCを毎日持ち帰る習慣を身に付けられるように今後もしていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科において体験的な活動を毎単元に1回程度取り入れるように今後も工夫をしていく。活動中にタブレットを用いて共同編集や話し合い活動を行い、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする活動を今後も積極的に進めていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)